

上小っ子 校長室だより

2023年4月27日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

上郡町立上郡小学校 校長 森中 誠

新年度が始まりました。春らしい、いやむしろ暑いくらいの天気の良い日差しの中で、子どもたちは休み時間、元気に運動場や校舎南側の学校の森で遊んでいます。運動場から見える生駒山や鈴の宮公園の山も本当に美しい萌黄色の若葉に彩られています。昨年度に引き続き、校長を務めることになりました。よろしく願いいたします。



今年度は、少しでも学校の取り組みや様子、ご家庭にお伝えするとともに、ご家庭でもその取り組みをご理解頂き、より一層一緒に子どもたちを育てていきたいという思いで、校長室だよりを発行することにいたしました。

さて、今年度の取り組み目標のテーマとして、「自律心と自立心の育成」を掲げています。児童にも始業式の式辞で話をしました。また、教職員にもその意味や目的などを年度初めに伝えました。

「自律」とは、物事を進めるにあたり自分自身で計画を立て、自らの考えで目的達成のために行動することと定義されています。自分でルールを決めてそれに従って行動したり、自分で調整して問題を解決したりする力につながっていきます。

また、「自立」は、他の助けなどなしに、自分一人の力だけで物事を行うことという意味です。自分で考えて選択や行動ができる力につながっていきます。反対の意味の言葉は「依存」です。

小学生に「自律心」や「自立心」を身につけさせるのは難しいと思われるかもしれませんが、「自律」で言えば、まず最初の自律心が発達するのは幼児前期（1歳6ヶ月～3歳）ぐらいと言われています。言葉の発達が著しく、自分で歩いたり食事をしたりと身体をうまく使えるようになってきます。そのため、何でも自分でやりたがり、大人のマネをしたがる自律性が発達します。

小学生においても、まず、自分でチャレンジしてみようとするのを大切に、そのチャンスを与えてあげることが大事だと考えます。そのときに、きちんと計画を立てて、決められたルールに従って実行していく力が、大人になる上で必要です。

では、どのようなことに注意したら良いでしょうか？

子どもが行動を起こすときに抱いた疑問に対し、保護者や教職員はしっかりと向き合い、話をして子ども自身が納得したとき、その行動はその子自身が理由づけした「自律的な行動」になります。時には、こちら側からルールを提示することもあるでしょうが、それもなぜそのようなルールなのかを話してあげる必要があります。



子どもが納得して行動できているか、自分自身がその意味を把握しているかが「自律心」を育てるポイントです。学校での教育活動はもちろん、家での家庭学習やゲームやスマホの使い方など大人も子どもも持っている「怠け」や「ずるさ」に立ち向かう、「自律心」を育てていきたいと考えています。